

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	並木 温先生ご略歴
別タイトル	Retired Professor Atsushi Namiki: Curriculum Vitae
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2023.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 70(1). p.2 5.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2022 032
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD22121253



並木 温先生ご略歴

1957年9月19日生

- 1976年3月 駒場東邦高等学校卒業
- 1976年4月 東邦大学医学部医学科入学
- 1982年3月 東邦大学医学部医学科卒業
- 1982年6月 東邦大学医学部附属大橋病院 研修医
- 1983年4月 関東労災病院 研修医
- 1984年6月 東邦大学医学部内科学第3講座 研究生
- 1984年10月 国立療養所東京病院 医員
- 1985年4月 東京大学医学部内科学第1講座 出向
- 1986年4月 東邦大学医学部内科学第3講座 研究生
- 1988年1月 日産厚生会玉川病院 内科医員
- 1989年1月 東邦大学医学部内科学第3講座 研究生
- 1990年4月 東邦大学薬学部薬理学教室 非常勤研究生
- 1990年9月 東京医科歯科大学医学部内科学第2講座 聴講生
- 1991年4月 東邦大学医学部内科学第3講座 研究生
- 1991年5月 東邦大学医学部内科学第3講座 助手
- 1993年7月 St. Elizabeth's Medical Center (Boston, USA) 留学 (東邦大学医学部給費留学生)
- 1996年6月 東邦大学医学部内科学第3講座 講師
- 2004年6月 東邦大学医学部卒後臨床研修/生涯教育センター 助教授
- 2006年12月 東邦大学医学部内科学講座 (大森) 循環器内科学分野 講師

2007年6月 東邦大学医学部内科学講座（大森）循環器内科学分野 准教授
 2011年6月 東邦大学医学部教育開発室 教授

主な学内の役職等

2003年7月 東邦大学医学部卒後臨床研修/生涯教育センター副センター長
 (2006年11月まで)
 2009年7月 東邦大学医療センター大森病院院長補佐 (2012年6月まで)
 2011年4月 東邦医学会雑誌編集委員長 (2014年3月まで)
 2012年4月 東邦大学医学部自己点検・評価委員長 (2014年3月まで)
 2013年4月 東邦大学医学部卒後臨床研修/生涯教育センターセンター長
 (2023年3月まで)
 2018年4月 東邦大学医学部副医学部長 (2021年3月まで)
 2018年4月 東邦大学医学部臨床支援室長 (2023年3月まで)
 2019年4月 東邦大学医学部臨床実習运营管理センター長 (2023年3月まで)

受賞など

平成元年度 東邦大学医学部額田奨学金
 平成4年度 東邦大学医学部柳瀬武司奨学金
 平成5年度 東邦大学医学部給費海外留学生
 平成24年度 東邦大学教育賞
 平成28年度 東邦大学創立60周年記念学術振興基金事業
 令和3年度 公益社団法人東京都医師会功労賞
 地区医師会会長 (10年在任)
 東京都医師会代議員 (10年在任)

主な学外の役職等

【公的役職】

東邦大学医師会会長 (2012年7月から2023年3月まで)
 東京都医師会代議員 (2012年7月から2023年3月まで)
 日本医師会予備代議員 (2016年6月から2022年6月まで)
 日本医学教育評価機構評価員 (2016年4月から2022年3月まで)
 大学基準協会大学評価分科会第29群委員 (2016年4月から2017年3月まで)
 日本私立医科大学協会卒後医学教育委員会委員 (2017年6月から2023年3月まで)
 東京都医師会外国人医療対策委員会委員 (2017年9月から2019年5月まで)

【学会の役職】 (2022年11月30日現在)

日本循環器学会関東甲信越地方会 評議員
 日本脈管学会 評議員
 日本心不全学会 評議員
 日本画像医学会 評議員
 日本心血管画像動態学会 評議員

退任にあたって

並木 温

東邦大学医学部教育開発室
東邦大学医学部卒後臨床研修/生涯教育センター

駒場東邦中学校に入学させていただいてからの53年間、私の人生は学校法人東邦大学と共にあり、学校法人東邦大学に慈しみ、育てていただきました。光陰矢の如し、振り返ってみればまさにあつという間の53年間でありました。

駒場東邦中学校・高等学校での6年間、「自主独立の気概」を標榜して自ら考え自ら行動する校風の中、Friendship・Fair play・Fighting spiritの3F精神を叩き込んでいただき、その後の人生の糧となりました。

東邦大学医学部での6年間、その思い出の多くは弓道部におけるクラブ活動とクラスメンバーとの数多くの共同作業でありました。

東邦大学医学部卒業後、進路に散々迷いましたが、最終的には東邦大学医学部付属大橋病院第三内科(当時)で研修することといたしました。専攻を消化器にするか循環器にするか悩みましたが、性格的に循環器の方が向いていること、また循環器治療薬の目に見える効果に魅了されて循環器を選択し、診療活動に没頭しつつ循環器薬物治療を中心とした基礎研究にのめり込んで行きました。血管生物学を基盤とした血管医学の研究遂行に必要な、血管平滑筋や血管内皮細胞に対する薬理的・分子生物学的研究法を学ぶために、いくつかの国内外の大学で学ぶ機会を与えていただいた当時の教室の先生方のご理解に、いまでも心から感謝しております。

東邦大学医学部給費留学生として留学させていただいて帰国後、当時の上司や病院執行部の先生方のご指示もあり、循環器内科医の育成や病院の診療システムの改善に関心をもつようになりました。その延長として、2003年に、翌年の初期臨床研修制度改革を見据えて医学部に設立された卒後臨床研修/生涯教育センターの副センター長として大森キャンパスに異動することとなり、21年間医師として育てていただいた大橋病院に別れを告げることとなりました。

赴任した卒後臨床研修/生涯教育センターは、まさにゼロからの出発でありました。上司のセンター長、事務局の課長1名、事務員1名の4名からのスタートであり、ハード面とソフト面の整備に忙殺され、気が付くと終電間近、と

いう毎日であったことを、懐かしく思い出します。前例のない中から新たなことを創造することで多くのことを学びつつ、2004年4月に東邦大学医療センター3病院に初期研修医を迎え入れる達成感を味わうことができました。

その後2006年から東邦大学医療センター大森病院循環器内科において教育・診療・研究に従事することとなり、2009年からは大森病院院長補佐として組織としての大森病院全体を学ぶ機会をいただきました。病院の現場に戻ったことで、教育・診療・研究は三位一体でありお互いに深く関連していること、そして教育・診療・研究のすべてに関心を持ち続けることにより医師としての奥行きを深める(レベルアップする)ことができること、をあらためて実感することができました。

2013年4月からは卒後臨床研修/生涯教育センターの責任者として、多くの関係する皆さまのご助力をいただきながら、東邦大学医学部および医療センター3病院の初期臨床研修への対応や後期臨床研修(専門研修)のシステム構築などに尽力して参りました。また2019年からは臨床実習運営管理センターの責任者として、卒前教育の集大成である診療参加型臨床実習の体制整備と内容の充実に、微力ながらも注力して参りました。

東邦大学人としてのいままでの人生を振り返ったとき、本当に多くの皆さまに育てていただいたことを痛感し、心よりの感謝の念を禁じえません。診療においては患者ファースト、教育においては学生ファースト、優しく丁寧で誠実な対応をする穏やかな東邦の雰囲気が本当に大好きでした。教育を考えることは、その組織の将来を考えることです。今まで自分が東邦大学から与えていただいたことのかいほどが後輩たちに伝えられたのか、自信はありません。しかし東邦大学の土台を黙々と支えてくれている多くの方々の存在を、また資質に富んだ才能豊かな素晴らしい学生や若手医師が東邦大学には沢山いることを知ることができました。彼らの将来に期待しつつ、東邦大学から去りたいと思います。

東邦大学の益々の発展と輝かしい未来を、心より祈念し

ております.

DOI : 10.14994/tohoigaku.2022-032